

会 議 録

会 議 名	令和4年度文化によるまちづくり推進委員会（第2回）	
開 催 日 時	令和5年3月29日（水） 18時～19時10分	
開 催 場 所	山陽小野田市役所3階 大会議室	
出 席 者	岸田 茂、池上 雅代、東原 秀一、縄田 五月、 穉本 真一、原 雅典、竹内 道子、松永 進、 湯城 明彦、岩本 信子、塩田 賢二、縄手 秀樹	委 員 数 17人 出席者数 12人
欠 席 者	齊藤 大二郎、比嘉 朝康、廣田 由実、 坂井 久美子、八橋 裕起、	欠席者数 5人
事務担当課 及び職員	市民部文化スポーツ推進課 文化スポーツ推進課：石田課長、原田主幹、別府	
会 議 次 第	1 「山陽小野田市文化芸術振興ビジョン」の前期行動計画（素案）について 2 その他 次回会議について	
事務局 委員	<p>次第1 議題 「山陽小野田市文化芸術振興ビジョン」の前期行動計画（素案）について</p> <p>事務局から前回からの変更点を説明。</p> <p>全体的にわかりやすくなったというか、体裁が整った。全体に絡むことだが、現状値を令和3年度で記載しているが、項目によっては異常値ではないか。異常値をそのまま現状値にして良いのか。令和3年度に中止となっているものは、それ以前を入れた方がわかりやすい。具体的なプログラムが個別事例で各事業で上がっているが、これは言葉として個別事例というのはしっくりこない。事例という例題である。取り上げているのはそれぞれの事業であるため、事業名や個別事業というふうに変えたほうがわかりやすい。また、その下の矢印がついた表の作り方だが、左上に行動計画と記載のあるところだが、令和8年も含め全体が行動計画である。具体的なプログラムの下に個別事例とあるが、かっこ名はなんでも良いが、行動計画というのを表の上を書いて、そして行動計画と掲げるからには、事業計画の方がわかりやすくて良い。全体的な感想は以上である。個々については後ほど。</p>	
事務局	アウトリーチは令和3年度からの事業で、令和3年度開催できていないため、中止と記載している。目標値であれば2回となる。他についても異常	

	<p>値となるところはあるが、一つ現状値として示すところになるため、中止など通常では考えられない目標値ではない数字が上がっているが、これはこれとしてR6やR8はコロナが解決している想定であるため、これに対してはこのままでいきたいと思っている。委員の反対が多ければ修正も考えるが如何か。</p>
委員長	<p>KPIの指標を出すときに、この現状値は影響するのか。</p>
事務局	<p>影響しない。現状値はあくまでも参考である。</p>
委員長	<p>そうであれば、委員がそう理解しておけば良いのではないか。</p>
委員	<p>例えば、P7の市民文化祭の2,480人というのは、異常値ではないのか。</p>
委員長	<p>これは異常値ではなく事実である。それ以前が異常値で、それ以前は200人以下。大改革をやってここまで持ってきた。文化協会としてはめずらしく踏ん張ったところである。初年度みたいなもので、このまま順調にいけば伸びるであろうという数字。</p>
委員	<p>令和3年度はコロナ禍であったが、R6、R8を見るに当たって、現状よりも伸ばしたいというのがあると思うが、各項目ごとにそぐわないのであれば、このままで良い。</p>
事務局	<p>この文化芸術振興ビジョンが計画の開始となっている。それに基づいて行動計画を策定しようとしている。令和3年度の数値としては、参考ということで御理解いただいて、令和6年度、8年度の数値を目指して、行動計画を進めていきたいと思っている。</p>
事務局	<p>続きに、先ほど御指摘いただいた、個別事業を個別事例に、表の上に行動計画を書いて、表中に行動計画を書いていたのを例えば個別事業に改めるといったところは、御指摘のとおり修正したいと考えるが如何か。</p>
委員長	<p>全員賛成です。</p>
委員	<p>P11のガラス出張体験の評価指標の所だが、R6、R8が12回となっているが、ガラス未来館の職員等々の問題があるため、目標数値ではあるが、ガラス未来館の職員と相談して欲しい。増える分には良いが、</p>

	減ることもあることを御了承いただきたい。
事務局	承知した。
委員長	少年少女合唱祭は、かなりジャンプしているようだが。
事務局	仰るとおりかなりジャンプをしている。この事業は山陽小野田市の特色ある事業の一つでもあるため、コロナ禍で増やすことが難しかったが、今後においては、参加団体等増やす中で、団同士の交流を等も含めて参加人数を増やして行きたい。
委員長	これは、下関など市外の人も対象なのか。
事務局	そうである。
委員長	それなら良いが、市内なら難しい。他にあるか。
委員	行動計画の矢印の表だが、この矢印のようにできるのか、疑問である。一つは、P 6の助言体制の構築が、ずっと構築ばかりになっている。P 10に文化芸術データベースの構築ということで、R 5に企画構築をして、R 6から運用開始とある。これは上手く推進できると思うが、今のP 6の箇所の相談・助言体制のずっと構築は実際にどうなるのか少し不安である。それと、学校における体験学習の充実ということで、R 5に企画・調整があつて、矢印がR 6からあるが、ここから何をするのか。企画・調整がそのままずっといくのか、あるいはP 10にあるように充実させて実施させていくのかがわかりにくい。実際にはR 5に企画・調整したら、翌年からは体験学習を運用しながら、さらにはローリングしながら、調整・検討してステップアップしていくのではないか。表現の仕方を変えた方がよいのではないか。同じようにR 6の下の所の情報発信の管理・運営体制の構築がずっとR 8まで矢印があるが、具体的に動けるのか懸念している。P 8の上の矢印であるが、担い手側の若手芸術家の活動支援ということで、令和5年度が調査・検討になっているが、R 6から支援をするのではないか。P 8の下段の方に芸術創作活動への支援・検討とあるが、具体的なプログラムで検討とあるが、検討で言葉を切るのはどうか。内容のところで、その実施に努めるとあるので、検討した後実施まではいるのではないか。個別事例の所の検討・実施として、表の所も検討・実施とすべきではないか。P 9の矢印のコーディネーターの確保もR 6に確保して、R 7から活用になると思うが、そのあたりの整理をした方がよい。その方が動きやすく、検証もしやすい。

事務局	矢印に関しては実際の運用のところにしたいので、仰せのとおりである。御指摘のとおり修正したい。
委員長	相談・助言体制のところ、具体的に説明をお願いする。
事務局	相談・助言体制の構築ということで、芸術文化アドバイザーを設置しているため、その方々の活用を意味している。
委員	誰がいるのか。
事務局	6名の方がいる。ガラスの分野で2名、かるたの分野が2名、音楽の分野で2名である。こちらの方々の活用である。
委員	P 7の市民の文化活動芸術支援のところだが、市民の文化発表の場の充実とあるが、市民限定で活用を考えているのか。
事務局	そうである。
委員	それで思うのが、市民は6万人少しである。両隣が宇部市、下関市と大規模な人口に挟まれているところで、その両方の人材なり、感心を持っている人を巻き込むような考えがないと、活性化しないのではないか。市の税金を使うというのはわかるが、4, 000人という目標は市民限定では厳しいのではないか。
事務局	市民の税金を使用するため、市民というのは大前提となるが、ただ、市民文化祭の特別作品展というものを企画していろいろな方を多く呼び込もうと取り組んでおられるがその特別作品展に、今後、市民のみならず、他市の芸術に携わっておられる方の作品を見る機会というのも市民の方には文化の振興という点では大事である。市民と記載しているが、市民と限定せずに作品の展示は前向きに検討していきたい。
委員	検討ではなく実施しないと達成は無理である。
委員	私もそう思う。P 1の市長の挨拶に協創とある。これが重要な言葉ではないか。近隣市を巻き込んでいくような作り方が必要ではないか。市民の税金を使うという立場は理解できるが、実際つくりあげていく時は、協創がある程度必要である。
事務局	市と文化協会とで共同で主催する事業となっている。委員長をされてい

	<p>る方から文化協会の関係でいろいろと提案を受けている。皆様方からいただいた意見については、検討ではなく実施する方向で文化協会と協議して進めていきたい。</p>
委員長	<p>心に残る作品展の投票を行っている。その進化版で金賞・銀賞・銅賞というのを各市で行っているが、本市では審査員を設けるわけにはいかないため、金賞・銀賞・銅賞というのをやめて、来場者の人気投票を行っている。他市では、防府市で開催するのに、山口市の方が金賞を取ったりしている。誤解を恐れずに言うならば、正常な形にしていきたいと思っている。特別展をどんどんやっていきたい。例としては、ロサンゼルスに住んでいる方で山陽小野田市出身の方に声をかけている。そういうふうを広げていこうと思っている。</p>
委員	<p>前期の計画を立てているが、全部の計画を全面的にやっていくのかが気になる。この中で濃淡があるのではないか。市の予算が単年度予算というのはわかるが、ある程度どの辺りに予算がついているかわかるようなプロジェクトや背景に色を付けるなどすると、濃淡が分かり、重点的な部分がわかりやすく、そこに重点を置くという意識も生まれてくるのではないか。</p>
事務局	<p>市の財政の仕組みがそういう風になっていない。単年度会計しか予算要求できない。将来的な予算負担等を配分することができないため、この形になることは御理解いただきたい。</p>
委員長	<p>今の話はいろいろな所で出てくる。</p>
委員	<p>長いビジョンという目で見るとどうなのか。</p>
委員長	<p>検討はしていただきたい。</p>
委員	<p>ただ帯だけ続いてだらっとしているという感じを持たざるを得ない。やるのであれば、誰が主体で、いつまでに何をやるというのがしっかり目標値がわかる資料だと最初は思ったが、単年度起算ということで、単なる将来の目標だけではなく、単年度の重点目標を決めてやっていく方が現実的ではないか。どういうふうを持っていくかは大事なことだが、市の予算が単年度であれば、この年度はこうであるという表を作成して、しっかり追い込んで行った方が皆さんのために役に立つものになるのではないか。最初に比べて分かりやすくなったが、ではこれは一体何なんだろうという気持ちが個人的には残る。やりたいことは分かるが、予</p>

	算の裏打ちがないままに、誰が予算を取ってどうやって頑張るのかという話になってくる。これは絵に描いたもちと言わざるを得ないビジョンとなっている。
委員長	しごくまっとうな意見だが、苦しいところである。具体的な御意見が出たので、参考にさせていただければ。
委員	少なくともR5の見通しは如何か。年度年度ローリングしていき、今年度はこの予算で、これだけしかできませんでした等の反省を踏まえて、R6はこうしましょうと年々のローリングになっていく。最初のR5はこの計画でできそうな予算確保はできているのか。
事務局	この矢印を引いているところは実施するという予算確保ができています。
委員長	それは良かった。質問が的を得ている。
委員	P6の内容が理解できない。情報発信の管理運営体制の構築という事例があり、その内容が文化芸術に関する市内情報の集約と提供体制を構築するため…情報提供者と協力した発信に努めるというふうになっているが、管理運営体制の構築と中身の言っていることが違うのではないかと。
委員長	ビジョンを作る時に一番関心のあった項目である。事務局の説明をお願いします。
事務局	ビジョン作成の特に委員方からたくさん御意見いただいたのが、山陽小野田市での事業が民間含めてたくさんあるが、一体何を見たらすべてを把握できるのか、そのあたりを集約して情報発信することで、市民の方がコンサートや展覧会を見にいこうと選択できるようにできたら良いのではという意見をたくさんいただいた。そのあたりを踏まえて現在こういう書き方をしている。
委員長	個人的な意見としては、指定管理業者を定めて、外に出してはどうかと思っている。これはかかせない情報である。どこのまちでもやっているが、なかなかうまくいかない。ぜひ前向きに検討してほしい。
委員	内容的にそうであれば、文言が違うのではないかと。発信ツールをたくさん設けてみんなに提供していくため、情報発信の多様化という文言に変えた方が良いのではないかと。分かりやすい言葉に変えてほしい。

事務局	事務局は前向きに検討してほしい。
委員	評価指標を含めて、これはどこかに公表されるのか。
事務局	策定したら、HPで公表する。
委員	評価指標については、毎年数字の現状は報告するようにするのか。R6、R8だけなのか。
事務局	こちらの方は市の方で予算化をするための事業調書というものを個別に毎年作成しており、そちらの方の評価指標とリンクしているため、毎年 の結果は市の方で、行政評価の方で公開されることとなる。
委員	個人的には欲しい数字があり、文化会館と市民館の利用比率の変化が欲しい。イベント数や土日の使用率があればわかりやすい。感覚的にイベントやっていないと思う時でも、市民館実際土日全部埋まっていると言う風になれば、活性化しているように感じる。そういう数字があれば目に見えて分かりやすい。
委員長	大賛成である。情報発信に関連する。主催者によってそこが把握されていて、外部の人が借りた時に、その数字がかけているということがあると思う。誰が借りて利用しても載せる。そうすれば、先ほどの委員の意見で出た利用者数がわかりやすく出てくる。マトリックス化したい。その辺も含め、事業継続の観点からも、指定管理業者にした方が良いと思う。
委員	参考意見である。
委員	先ほど出た相談体制だが、6人で音楽やかるたと言われたが、それ以外にもいろいろ相談がありそうだが。相談体制というのは、市民に分かりやすい相談の案内等HPに載せているのか。身近に相談できる状況なのか。
事務局	こちらに掲げている相談というのは、市が事業をする上で専門家に相談して事業の構築を図るものである。委員が言われたような、市民が気軽に相談するというものではない。それに関しては、普段から文化スポーツ推進課の方に御連絡いただければ、その活用も検討できる。
委員	コーディネーターの確保と活用だが、具体的なプログラムに落とした場

	合、他分野とのネットワーク形成の促進を図るとあるが、具体的には他分野とはどういうイメージか。また、コーディネーターはネットワークの形成する役割と捉えられるが必ずしもそれだけではないと思うが、そのあたりをどのように考えているのか。
事務局	他分野とのネットワークとは、例えば以前ガラス未来館の方で、「ガラスと書」のコラボがあった。そういった形で、本来なら音楽のみで完結するものが、全く違う分野とコラボレーションさせることといったようなことで、芸術文化が広がっていくというのが、他分野とのネットワークの形成である。
事務局	コーディネーター像につきましては、文化芸術振興ビジョン策定の段階で、皆様方にこの文言になったかと考えますので、ここでの議論は避けさせていただく。R7年度に採用するのであれば、来年度に入りまして、文化によるまちづくりを開催してまいりますので、その中で皆様の意見やコーディネーター像をお伺いしながら、選定していきたい。
委員長	事務局が言うように、コーディネーターという言葉は皆さんの意見で決まった。最初は違う表現であった。また、他分野というのは、縦軸横軸両方ある。非常に広いところを網羅するイメージがある。私の個人的な意見だが、内容が良い。
委員	位置づけにもあるが、一番最上位は総合計画になる。その中に文化によるまちづくりの推進ということで、評価指標がそれぞれある。例えば文化施設利用者数がR7が9万人、ガラス体験者数が5,000人とあるが、KPIを達成することによって、総合計画の方が達成できるのかという見解を最後にお聞きしたい。
事務局	仰せのとおり、第2次総合計画で定めた指標があり、これを目指すために個別の積み上げの表が、これらの行動計画のKPIの一つになっているのではないかとということで、これらを一一つクリアすることで、最終的に山陽小野田市総合計画の目標数値に、直接の表現では落としていないが、これを考慮しながら進めていきたい。
委員長	数字にしばられない文化にしたい。頭から外してもらいたいと個人的には希望する。
委員	最後の数字について、ガラス未来館という立場から言わせてもらおうと、昨年実施したキッズサマーパスのおかげで5,000人を超える体験者

事務局	<p>数というのは出てきているが、申し訳ないが限界を超えているというのが現状である。委員長が言われるように5,000人の次は、6,000人、7,000人と言われても、館の性質上それ以上入れてしまうと、昨年の夏の報告にも記載したが、入れすぎで苦情が出ている。そこはブランドイメージを崩さない程度に、限度を設けていただきたい。</p> <p>5,500人という数字が現実MAXの数字であるので、今後の参考にしていただきたい。</p> <p>皆様方から御指摘いただいた点については、事務局の方で修正をさせていただき、皆様方に郵送し、一定期間御確認いただいたのち、問題なければ4月に策定していきたいと思っている。一部事務局に一任ということでよろしいか。以上である。</p>
-----	--